

世銀の開発援助における民間 活力の利用戦略について

世銀グループのビジネスパートナー
シップとは

世銀 島本晴一郎(02年10月29日)

世銀の開発援助の流れ

- 世銀の歴史＝貧困撲滅にかけての57年
- 90年代の外部環境変化（体制移行、ポストコンフリクト、グローバル化による格差、サブサハラ）
- 世銀の対応：パートナーシップとオーナーシップと民間活力利用による貧困撲滅のための総力戦（CDF99・1）

公共セクターと民間活力

- 先進国の流れ：公共サービスの民営化、アウトソーシングの一般化、米、英、日・・・
- 最大の課題：公共性 vs 利益性
- 途上国の流れ：民活インフラ、一部公共サービスの代替化、体制移行民営化
- 最大の課題：超低収益性＋政治・社会・為替リスク

民間資金の途上国向けフロー

- 91年 ODA 600億ドル
- 民間資金 600億ドル

- 2001年 ODA 400億ドル
- 民間資金 1600億ドル

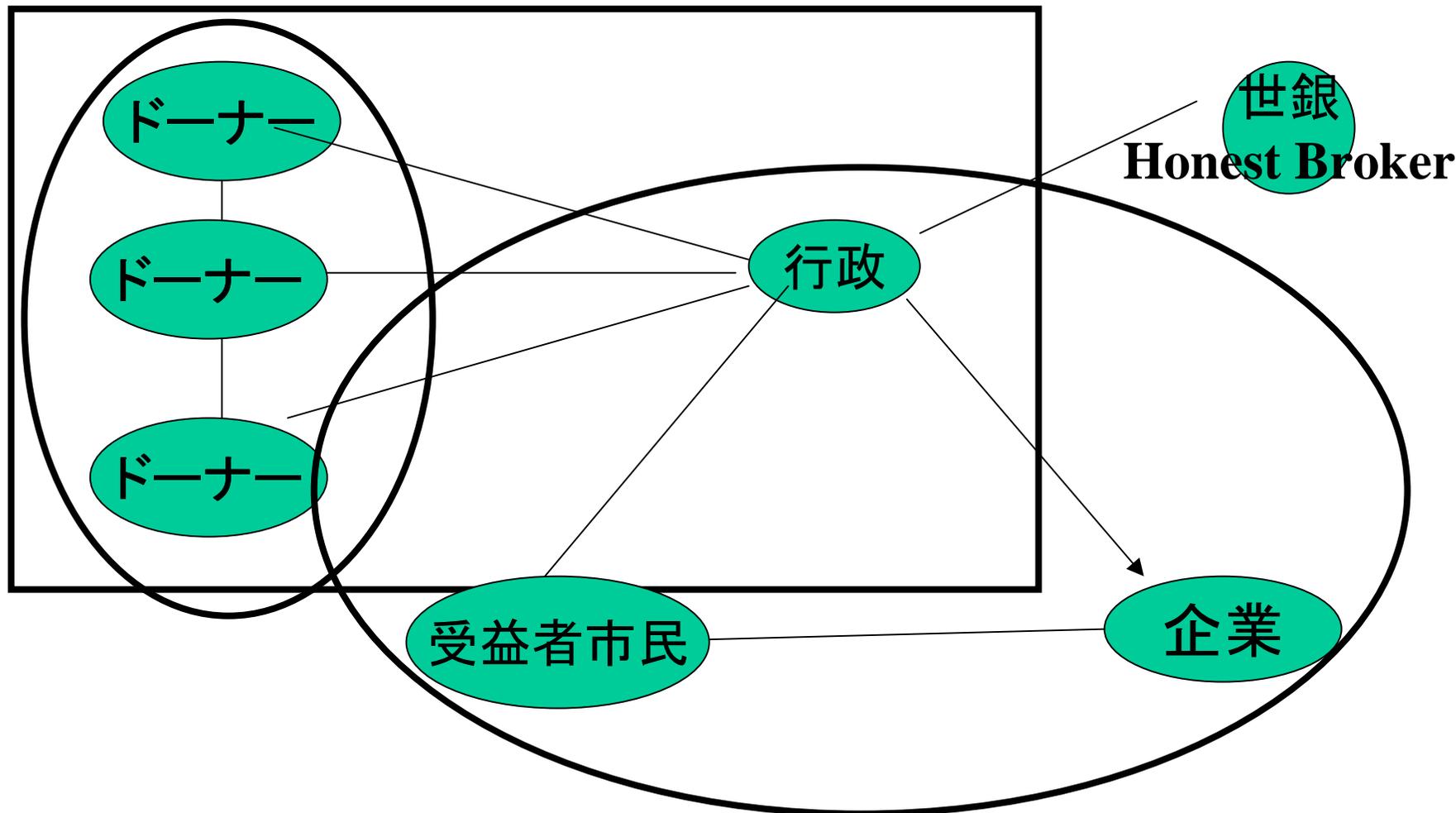
世銀の民活戦略

- 民活対応組織・・・グローバルプロダクトグループ
2000年 PSI VPU
- 民活戦略ペーパー:[貧困]を狙い撃ちした開発
効果の高い民活利用を主唱・・・Output Based Aid
- 手段 投資事業環境整備
リスクヘッジ＋サブシディ
CSRとCG推進
- 実例を積み上げノウハウ蓄積

OBAのレッスン

- 競争原理を活用（一括か/分割か）
- 行政の補助支援＋モニター（時にはペナルティー）の必要性
- 専門性、工夫、創造性有する企業の参加
- ファンドが必要
- 受益者の意思(willingness、demand)の吸収
- ビジネスパートナーシップでプレイヤーを繋ぐ

世銀の用いるパートナーシップ



ビジネスパートナーシップ

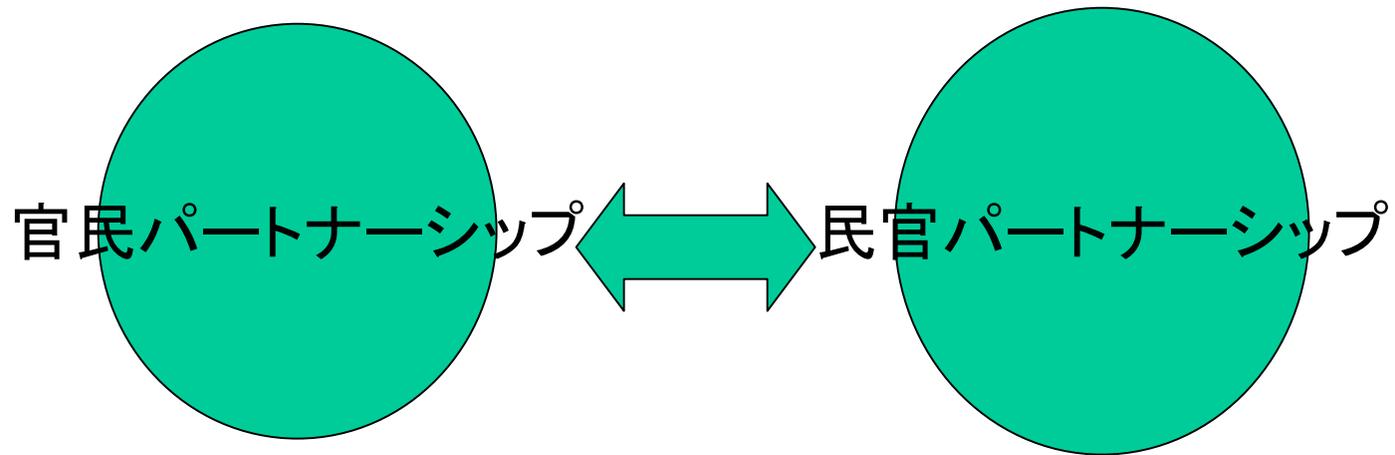
- 経緯：CSRキャンペーンPWIBLF他NGO, 企業との対話 98年――> 世銀がイニシアティブをとり BPD(Business Partnership for Development)=4つのクラスター実験(水、マイニング、交通、若者)
- BPDのレッスン：共通目的、各プレイヤーの permissibleな目的と役割り分担、単独より連携、透明性、資金源、コンフリクトオフインテレスト
- 定義：フィランソロピーではなく、公共性と利益性の両立を図るもの。

今後の課題

- Incubationまでの難しさ・・・旗手
- モノポリー、專業者利得の弊害
- 制度変更、外部經濟事情の変更への対応
- 世銀の貧困への比重・・・特定貧困
- 一般經濟インフラへの回帰不足 (Pro-poor Growth)
- 官民パートナーシップ vs 民官パートナーシップ

日本の開発援助と民活

- プラント輸出、海外投資、PFの促進効果（制度金融民間金融補完原則、経済効果利点）
- JICA、AOTS,技術協力、JETRO情報協力
- 官民パートナーシップ：委員会・・・民活委員会etc
- 日系企業の現地社会貢献の「明德化」と連携
- 現地商工会（進出企業）、政府、受益者の自主ネットワークへ
- パートナーシップファンド
- NPOなどHonest Brokerの出現待たれる



イニシアティブは民間がとる
官は1歩引き、環境作りと支援へ

有難うございました